

CONTENTS

大阪消防11

表紙：石川県輪島市にて活動中の
緊急消防援助隊

01：コンテンツ／災害概況

02：特集 能登地方の大雨災害に対する
緊急消防援助隊の活動(前編)

04：特集 第52回全国消防救助技術大会

08：震災対策一丁目一番地(番外編)

11：No more!事故～撲滅への道～

12：Just Do It!

14：2025年大阪・関西万博

15：教えて〇〇課!

16：ジョカツ!!

18：実録!!調査鑑識

20：救急いろは

22：We are Rookies!

24：消防漢字ガール

25：Another Voice～こちらは指令情報センターです～

26：大阪の消防NEWS

28：現場に活かす!救急救命士国家試験問題

29：落語DE火の用心

30：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより

31：市民表彰 ～市長表彰～／アニマル環状線

32：健康ダイアリー

33：九条みなみの昇任試験問題研究所

34：功績表彰

38：【職務】令和5年中の規制対象物における
火災発生状況(3)

40：救急安心センターおおさかだより／編集後記

大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
9月中件数	0	0	6	27	33	4	0	0	8	45
令和6年 9月末累計	11	16	129	280	436	32	1	2	61	532
令和5年 9月末累計	13	14	103	284	414	32	1	3	84	534
累計比較	▲2	2	26	▲4	22	0	0	▲1	▲23	▲2

◎救急概況

	救急出場
9月中件数 (概数)	18075
令和6年 9月末累計	201409
令和5年 9月末累計	196997
累計比較	4412

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他の 消防活動
令和6年 9月末累計	3489	972	0	864
令和5年 9月末累計	3317	1146	10	948
累計比較	172	▲174	▲10	▲84

大阪府土砂・風水害機動支援部隊等の活動状況



9月22日 活動開始前の現地確認
(③輪島市久手川町)



9月21日 大阪府土砂・風水害機動支援部隊出動
(高度専門教育訓練センター)



9月22日 孤立した地域からの救出 (①輪島市町野町)



9月22日 孤立した地域からの救出 (①輪島市町野町)



9月23日 孤立した地域からヘリによる救出
(②鳳珠郡能登町)



9月23日 孤立した地域からの救出 (③輪島市久手川町)



9月25日 土砂からの救出 (③輪島市久手川町)



9月23日 検索場所へ移動 (③輪島市稲舟町)

①～③は地図中の場所を示す。

特集

能登地方の大雨災害に対する緊急消防援助隊の活動（前編）



令和6年9月20日からの記録的な大雨により、石川県輪島市、珠洲市、能登町では9月21日に大雨特別警報が発表され、大規模な河川の氾濫や土砂災害が発生しました。9月21日、消防庁長官から緊急消防援助隊出動の求めがあり、大阪市消防局の指揮支援隊、航空小隊及び大阪府土砂・風水害機動支援部隊が石川県輪島市等に出動しました。ここでは、その初期の活動について紹介します。

【活動にかかる時系列（9月21日～25日まで）】

9月21日

- 13時08分 石川県知事から消防庁長官に対して、緊急消防援助隊の応援の要請
- 13時12分 消防庁長官から大阪市消防局の指揮支援隊及び航空小隊に出動の求め
- 13時42分 指揮支援隊1隊7名のうち4名が空路移動のため八尾空港へ出発（14時07分に3名が陸路隊として石川県へ向け出発）
- 14時31分 八尾空港へ到着した指揮支援隊4名は航空小隊1機3名と共に空路移動
- 16時00分 指揮支援隊の後方支援隊として1隊4名が出発
- 16時05分 消防庁長官から大阪府土砂・風水害機動支援部隊に出動の求め
- 20時03分 大阪府土砂・風水害機動支援部隊が出発（大阪市10隊33名、府内消防本部2隊14名）

9月22日

- ・9月21日に出発し輪島市に到着した1巡目派遣隊による現地確認を開始
- ・町野町において孤立した地域から要救助者を救出

9月23日

- ・久手川町において孤立した地域から要救助者を救出
- ・大沢町及び鳳珠郡能登町において孤立した地域からヘリにより要救助者等を救出

9月24日

- 14時00分 2巡目派遣隊（交代要員）が出発

9月25日

- ・輪島市に到着した2巡目派遣隊により、久手川町において土砂から要救助者を救出



主な救助活動場所



第52回全国消防救助技術大会

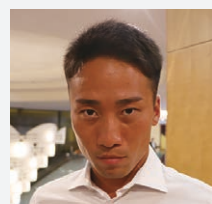
in千葉

2024. 8. 23

今月は、千葉市で開催された全国消防救助技術大会へ出場した隊員のコメントを紹介します。



水上の部 溺者搬送 第1位



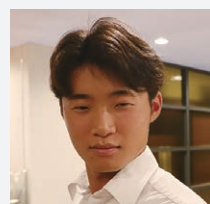
都島消防署
消防士長
山村 亮博

私は、全国救助大会に水上の部の溺者救助・溺者搬送の2種目で出場し、溺者救助で入賞、溺者搬送では全国1位を獲ることができました。

このような結果を残すことができたのは、自分の力だけではなく、様々な方の指導や支えがあったからだと思います。指導員をはじめとする訓練に携わって下さった方々、訓練へ送り出し、応援して下さい都島消防署の方々、そして家族に結果で恩返しできたことを本当に嬉しく思います。

本訓練では、緊張やプレッシャーの中で結果を残す難しさを改めて感じました。しかし、訓練を始める「準備よし」の時には目の前にいる要救助者のために自分のやってきたこと、そして仲間を信じてやるべきことをやるのみという考え方を指導員や中隊長が常に仰っていたことを思い出し、緊張やプレッシャーを乗り越えることができました。

全国救助大会において経験したことは、今後の消防人生において糧となり、様々な場面で活かすことが出来ると思います。私には訓練をするにあたり特に意識していたことがあります。まず一つ目は、自分の動きを研究し尽くすこと。二つ目は、通し訓練を行う際はベストを毎回更新すること。これらのことは所属の訓練や特に現場活動にも通ずるところがあります。今後は、これらの経験を活かし、あらゆる場面で活躍できる隊員になれるよう日々邁進していきたいと思います。



水上消防署
消防士
武江 心平

私は、消防職員となって2年目にして全国救助大会を経験することが出来ました。消防職員としてはまだまだ未熟ですが、全国1位になるという目標を掲げ訓練に取り組みました。しかし、ロープの持ち方や手の角度、体を動かす速度など繊細で突き詰めた訓練を行っても、結果に繋がらない壁に何度も苦しみました。

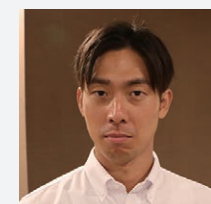
近畿地区指導会で、救助者として出場した「人命救助」では、0.01秒で全国大会出場を逃してしまい、厳しい世界を実感し、悔しい思いと共に、来年こそ勝とうと決心しました。要救助者として出場した「溺者搬送」では、全国大会という舞台へ上がることが出来ました。初めての長水路プールにも関わらず、相方と励まし合い、全国1位という成績を収めることが出来ました。

救助訓練を通して、全国1位という成績だけではなく、訓練に対する姿勢は勿論のこと、先を呼んだ行動や、諦めずに試行錯誤する精神力など、形では表せない多くのものを得たと思います。学んだことや得たものを、自分のものとし今後の消防人生をより豊かにしていきたいです。

私が、結果に恵まれたのも、訓練に送り出してくれた所属の方々、苦しくなっても励ましてくれる仲間、家族、周囲の方、一人一人の支えがあったからこそだと思います。本当にありがとうございました。



陸上の部 ロープブリッジ渡過 第1位



東住吉消防署
消防士長 勝丸 大地

千葉の舞台で、念願の全国1位を掴み取りました。

私達、大阪市消防局代表ロープブリッジ渡過の隊員は、間違いなく今年が一番渡りました。代表的な訓練メニューは「通しインターバル5分×10本」です。指導員からの指導の下、仲間と共に、毎日ロープブリッジ渡過のことを考え、0.1秒を縮めるための訓練を繰り返しました。たった20mの渡過線を往復する操法ですが、そこには無限の渡り方があります。研究、思考、実践、その過程を繰り返し、操法の精度を高めていきます。そして、この精度を高める過程こそが、災害現場活動に繋がると学びました。

私は2年前の東京での全国救助大会で、水上の部の人命救助という種目で全国1位になりました。水上・陸上の両部門で全国1位になることは、2年前からずっと目標にしていたことで、水難救助隊として勤務していたときから、水難の災害現場活動だけでなく、陸上の災害現場活動のプロフェッショナルにもなりたと思っていました。まだまだ、プロフェッショナルになれたとは思いませんが、この結果で得た自信と誇りを胸に、これからも1人でも多くの要救助者を迅速かつ安全に救助するため、研究、思考、実践を繰り返していきます。

一つ、私の思い、そして願いとして、若手隊員は、陸上・水上の部に拘らず、様々な訓練種目に挑戦して欲しいと思います。挑戦した分だけ、成長することができます。

最後に、自分一人の力ではこのような結果を出すことはありません。事務局の方々はじめ、指導員、訓練メンバーである仲間達、所属の皆様、全てをあげるときりがないぐらいの方々と関わりがあったからの結果です。皆様には本当に感謝しています。ありがとうございます。



全国1位の3名に対して、令和6年9月19日に局是記章「強実章」が授与されました。



阿倍野消防署
消防司令補 堤 勇樹

水中結索
水中検索救助 入賞

大阪市消防局として、今回の全国救助大会は水上と陸上の各1種目で全国1位という素晴らしい結果となりました。これも、私達を気持ちよく送り出してくれた所属の方々、献身的にご指導くださった指導者の皆様、そして事務局として細部に渡りサポートしてくださった救助担当の皆様のおかげです。皆様の熱い応援は千葉まで届いているように感じ、全国救助大会という大舞台の緊張や不安な気持ちを忘れさせてくれました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今後はこの訓練で学んだことを活かし、後輩職員の模範となるよう、胸を張って業務に取り組みます。本当にありがとうございました。

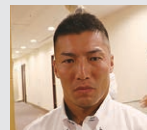


東淀川消防署
消防司令補 塚元 祐司

溺者救助 入賞

溺者救助2年目で掴んだ、初めての全国救助大会。全国1位を目標に、本番までの5ヵ月間を全力で走り抜けましたが、一歩及ばず、結果は入賞でした。伸び悩んだ時期もありましたが、指導員をはじめチームの仲間と1つになれたからこそこの結果だと感謝しています。苦楽を共にしたチームの仲間達との時間は私の消防人生の大きな財産となりました。今後は大会を通じて得た、様々な技術や知識を後輩達へ伝えていくことが私の使命だと感じています。

最後に、長期に渡り訓練や運営に携わってくださった皆様、ご支援ご協力、誠にありがとうございました。



北消防署
消防司令補 北川 瞬

引揚救助

全国救助大会出場にあたり、本番で他本部と戦うためには、効率の良い訓練、また訓練時間以外での自己分析が重要であることを学びました。

さらに、5人で行う団体種目への出場であったため、チーム内での助け合いの精神も学ぶことができました。今後は、災害現場での活動時においても小隊内で助け合いの精神を持ち、安全確実かつ迅速な活動を行っていきたいです。

今回の近畿地区指導会、全国救助大会への出場に際しまして、皆様からたくさんのご支援、ご協力、また激励をいただきましたことを深く感謝いたします。本当にありがとうございました。



北消防署（現：浪速消防署）
消防士長 足立 浩章

引揚救助

他本部より短い訓練期間の中で、全国1位レベルのタイムを出せるチームになる、という困難な状況での訓練でしたが、チーム内での助け合いや現場を意識した訓練など、今回の経験は今後に活かせる貴重なものでした。ひとりの力でなく、チームで戦うことは消防の強みです。今後は、それを災害現場で活かし、要救助者を安全・確実・迅速に救出することへ繋げていきたいと思っています。

業務や災害等、多忙な中で訓練に専念させてもらい、また訓練する環境を整えていただいたこと、たくさんの方から支援や応援を頂いたことに感謝しています。



東住吉消防署
消防士長 高瀬 渉

水中結索
水中検索救助 入賞

私は、水中結索と水中検索救助で全国救助大会に出場しました。水中結索では昨年のリベンジに燃えていましたが、結果を残すことができませんでした。初出場の水中検索救助は2位。悔しい終わり方になってしまい、チームで優勝することの難しさを改めて感じました。今後は、「必ず要救助者を助ける」という気持ちを持ち続け、今回の経験とともに現場活動へ生かしていきたいです。

最後に、救助訓練に携わってくれた皆様、応援してくださった所属の方々、迷惑をかけた家族に、長い間支えていただき、ありがとうございました、と伝えたいです。

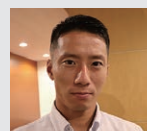


水上消防署
消防士長 窪田 琢也

溺者救助 入賞

私は、去年に引き続き全国救助大会に出場しました。私が出場した溺者救助という種目は、チームの3人が力を合わせなければ成果を発揮できません。当初、初出場の私は減点ばかりでチームの2人に迷惑をかけてしまっていました。しかし、地道に訓練を継続した結果、無事入賞することができました。安全確実迅速に救出することを目標に訓練に取り組んだ日々の経験を、これからの消防人生に活かしていきたいです。

最後に、これまで支えてくれた家族、職場の仲間達、また、今回の強化訓練に携わって下さった全ての方に感謝申し上げます。



北消防署
消防士長 阿波谷 康平

引揚救助

訓練では、減量や5番員としての動きの習熟に苦労しましたが、チームリーダーの「現場に通ずる訓練にしよう！」という言葉を常に意識しながら、要救助者をコンマ1秒でも速く救出できるよう訓練に取り組みました。失敗が許されない本番の緊張感は、現場に通ずるものがあり、今後の消防人生の財産となる経験でした。

この訓練にあたって、支援して下さった皆様には本当に感謝が尽きません。食事面を支えてくれ、第一子が生まれたばかりの家を空ける時間が多くなったことで負担をかけた妻にも、この場を借りて感謝の気持ちを伝えたいです。



住吉消防署
消防士長 下之園 舟

引揚救助

チームの全員が全国大会への出場が初めてであったため、ルールの違いやそれに伴う訓練の進め方に戸惑いがありました。

しかし、訓練経験のない施設でもいつもと同じ動きができたことで、今まで行ってきた訓練の方法や方針が間違っていなかったと確信できました。今後は、一つとして同じものはない災害に対応できるよう、この経験を活かし日々の訓練に励んでいきます。

チーム5人だけではここまで充実した訓練を行うことはできませんでした、成長もできませんでした。約5ヵ月間、訓練に携わって下さった皆様、本当にありがとうございました。



水上消防署
消防士長 森下 翔太

水中結索
水中検索救助 入賞

全国救助大会へ水中結索と水中検索救助の2種目で出場しました。2種目で全国1位という目標を掲げましたが、結果は振るわず、全国の舞台で結果を出すことの難しさを痛感しました。しかし、目標に向かって訓練に取り組む先輩方の姿に、大阪市消防局のために自分自身を高めていきたいという思いは一層強くなりました。今後は、今回の経験で培った知識や技術だけでなく、自分自身を磨くことで市民の期待に応えられるよう努めていきます。

最後に、支えてくださったすべての方々に、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



天王寺消防署
消防士長 難波 拓人

水中検索救助 入賞

救助強化隊員1年目だった10年前、千葉で行われる全国救助大会の切符を手にはしましたが、大会は災害により本番直前で中止となりました。

あれから10年経ち、再び千葉での全国救助大会へ出場しました。10年分の思いが詰まった大会への出場でしたが、悔しい結果となりました。

しかし、この結果はまだ自分が成長できるということ気付かせてくれたのだと思います。救助において諦めないことは大事なことです。全国1位を目指して今後も頑張ります。

最後に、家族、職場、多くの支えてくれる方々のおかげであの場に立つことができました。深く感謝します。



住吉消防署
消防士長 中西 詠一

引揚救助

今年は引揚救助の全体的なスピードや精度が例年より格段に上がっていました。私達のチームは、隊員全員が全国大会初出場ということに加え、3ヵ月間という短い期間で、これまでのやり方とは異なる操法を極め、全国1位を目指すためには、自身の技術向上とバランスのよいチームの強化が必要と考え、チーム一丸となって取り組みました。

この訓練で培った精神力、忍耐力、技術力を、今後の消防人生に活かしていきたいと思っています。

この訓練を何不自由なく実施できたのは、応援、サポートをして頂いた方々のおかげです。訓練中の皆さんの応援はとても力になりました。本当にありがとうございました。

震災対策

一丁目一番地 番外編

近い将来、発生が危惧される巨大地震に対応すべく、各署の震災対策について紹介してきた連載「震災対策一丁目一番地」。その番外編として、今回は本年元日に発生した「令和6年能登半島地震」による大津波警報「および8月8日に発生した日向灘の地震による「南海トラフ地震臨時情報」について解説します。

令和6年能登半島地震による大津波警報発表

本年元日に発生した石川県能登地方を震源とするマグニチュード7・6の地震により、大津波警報が発表されました。（表1）

気象庁では地震発生後、3〜4分以内に津波到達予想時刻、予想される津波の最大波の高さを発表することとしており、能登半島地震の際は地震発生の2分後に発表されました。第1波の到達予想時刻は潮位の変化が始まる時刻で、石川県加賀では17時00分と予測され

m以下の場合には「観測中」と発表され、1mを超えると数値で発表されます。（表4）能登半島地震の際は、16時29分に、「輪島港で16時21分に1・2mの津波を観測」と発表されていることがわかります。（表5）

以上が能登半島地震において発表された大津波警報の概要です。地震発生後には、気象庁から震度に関する情報など様々な情報が発表されますが、どのタイミングでこういった内容の情報が発表されるのか事前に理解しておくことで、情報の整理がしやすくなります。

表3 気象庁から発表された津波情報①

令和6年1月1日16時12分 [津波到達予想時刻・予想される津波の高さ] #印は新たに発表、あるいは情報を更新した箇所です。 津波到達予想時刻および予想される津波の高さは次のとおりです。		
予報区名	第1波の到達予想時刻	予想される津波の最大波の高さ
<津波警報>		
#新潟県上中下越	津波到達中と推測	3 m
#佐渡	津波到達中と推測	3 m
#富山県	津波到達中と推測	3 m
#石川県能登	津波到達中と推測	3 m
#石川県加賀	01日17時00分	3 m

（実際のメール本文）

表5 気象庁から発された津波情報②

令和6年1月1日16時29分 1日16時27分現在の、津波の観測値をお知らせします。 [各地の検潮所で観測した津波の観測値] 富山 第1波到達時刻 01日16時13分 引き これまでの最大波 01日16時23分 0.5 m 輪島港 第1波到達時刻 01日16時10分 押し これまでの最大波 01日16時21分 1.2 m			
---	--	--	--

（実際のメール本文）

表4 沿岸で観測された津波の最大波の発表内容

警報・注意報の発表状況	観測された津波の高さ	内容
大津波警報を発表中	1m超	数値で発表
	1m以下	「観測中」と発表
津波警報を発表中	0.2m以上	数値で発表
	0.2m未満	「観測中」と発表
津波注意報を発表中	すべての場合	数値で発表 (津波の高さがごく小さい場合は「微弱」と表現。)

気象庁「津波警報・注意報、津波情報、津波予報について」より引用

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html>

表1 大津波警報等発表の時系列

時刻	発表内容
16時10分	地震発生
16時12分	津波警報・注意報発表（石川県能登等）
16時22分	大津波警報・津波警報・津波注意報発表（石川県能登を津波警報から大津波警報に、その他の数か所を津波警報に切替）
16時29分	津波情報（津波観測に関する情報）
20時30分	津波警報・注意報発表（石川県能登を大津波警報から津波警報に切替）

以降、津波警報が津波注意報に切替、さらに段階的に津波注意報が一部解除となり、最終的に、1月2日10時00分にすべての地域の津波注意報が解除となった。

気象庁「令和6年1月 地震・火山月報（防災編）」について」より引用改変
<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/monthly/202401/202401index.html>

ているほか、石川県能登をはじめ、複数の地域で、地震発生後すぐに潮位の変動が起きていると推測されています。

津波警報・注意報の発表基準及び発表される津波の高さ等は表2の通りで、この基準に則り、津波警報として気象庁から発表された津波の最大波は3mとされていることがわかります。（表3）（後に、大津波警報に切り替わり「5m」に更新）

津波観測に関する情報は、大津波警報で1

表2 津波警報・注意報の種類

種類	発表基準	発表される津波の高さ	
		数値での発表（予想される津波の高さ区分）	巨大地震の場合の発表
大津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで3mを超える場合。	1.0m超 (10m<予想される津波の最大波の高さ)	巨大
		1.0m (5m<予想される津波の最大波の高さ≤10m)	
		5m (3m<予想される津波の最大波の高さ≤5m)	
津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m (1m<予想される津波の最大波の高さ≤3m)	高い
津波注意報	予想される津波の最大波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m≤予想される津波の最大波の高さ≤1m)	(表記しない)

気象庁 「津波警報・注意報、津波情報、津波予報について」より引用
<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html>

南海トラフ地震臨時情報

令和6年8月8日に発生した宮崎県日向灘における地震によって、初めて南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。（図1）

南海トラフ地震臨時情報は、監視領域内においてマグニチュード6・8以上の地震が発生した場合などに「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」が開催され、その後、情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」等の形で発

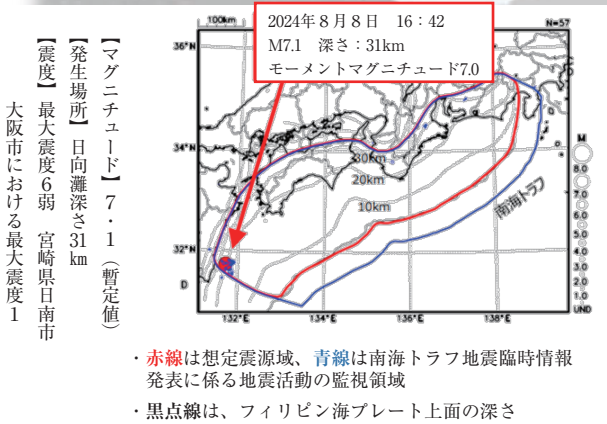


図1 宮崎県日向灘における地震の概要

気象庁 「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）について」より
https://www.jma.go.jp/jma/press/2408/08e/NT_202408081945sv.pdf

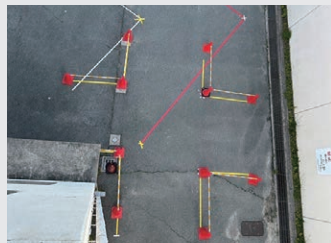
No more ! 事故

～撲滅への道～

119番通報を受けた際、安全かつ迅速に出場することで、いちはやく災害現場へ駆けつける消防車両。
消防車両は、安全に現場へ到着してこそ、最大限の活動が実施できます。
このコーナーでは、各署で実施している交通事故防止への様々な取組や対策を紹介していきます。
今日は、淀川消防署の取組について紹介します。

淀川消防署独自の取組 ～ 十三橋教習所としての設定 ～

十三橋教習所？
公用車事故を分析すると機関経験5年未満の職員の事故が多いとされています。慣れない消防車や救急車の車両感覚がわからない不安状態のまま機関業務を行っていませんか？
淀川消防署では、事故防止の独自の取組として、春と秋の交通安全運動時、十三橋出張所敷地内にコーン等を使用した仮想的な道路コースを作成しています。狭隘道路の走行、切り返し、車幅感覚の訓練等を実施し、若年層職員も訓練により車両感覚への不安を払しょくできています。また、機関員だけではなく誘導にあたる隊員も機関員や他の誘導員との意思疎通を図る機会となっています。
さらに、十三橋出張所では、はしご車の訓練も実施しています。機関操作のみならず、実際にアウトリガーを張り出すことにより道路幅員を考慮した、はしご車の部署位置確認なども可能です。
現時点では、常設ではありませんが、簡単に設置し気軽に訓練できるように準備中です。近隣署の方も気軽にドライブいかがでしょうか。



淀川消防署の取組

淀川消防署管内で通行する際に注意が必要となる場所でのポイント ～ プリベントマップの作成・活用 ～



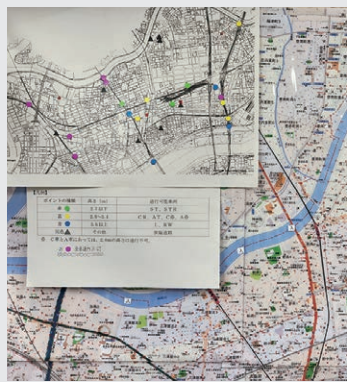
淀川区は陸の玄関口である「新大阪駅」を中心に、JR、私鉄、地下鉄が区内を縦横に延びています。南北に新御堂筋や国道176号線などの幹線道路が走っていて、アンダーパス等が多いという特徴をもつ行政区となっています。そのため、高さ制限による通行不可の箇所、通行可能な箇所を把握しておく必要があります。また、ST車より小さい車両のみが通行可能な箇所もいくつかあるので、救助工作車や救急車、はしご車などの通行の際は特に注意が必要となります。そこで、淀川消防署では管内の狭隘道路に加えて、桁下高さ制限の箇所を抜粋した【淀川管内プリベント※マップ】を作成しています。事前にプリベントマップを活用し、一人一人が危険箇所を把握することで、機関員だけではなく乗組員全員で共通意識を持つことができ、災害出場時の走行経路の選定や、安全運行に役立てています。また、受付内に【淀川管内プリベントマップ】を掲示して指令書確認時に桁下高さについても確認できるようにしています。
※ プリベント：防止する、防ぐという意味



淀川消防署事故防止プロジェクトのメンバー

この車、動かす時、気を付けて ～ コメンタリードライブの励行 ～

東三国出張所にはC(化学車)、AT(薬液搬送車)が配置されており、第4類危険物火災等で指令された場合、通常ST車に4名乗車のところC車・AT車に2名ずつに分かれて乗車し出場します。
C車・AT車ともに大型車両で一般車両と比べ死角が多く車幅や内輪差も大きいので、車両諸元を確実に把握する必要があります。さらに、2名ずつの分散乗車になるため、4名乗車時に比べ、より一層の意思の疎通が必要となり、コメンタリードライブを徹底しています。
また、車両後退等の車両誘導時は、機関員と誘導員との意思疎通を確実にできるように、警笛のみならず、携帯無線機も活用し、事故防止に努めています。
淀川管内は高架下を通る道路が数多く存在し、走行経路の選定も重要になります。特に大型車での走行は桁下の高さをより一層考慮する必要があるため、淀川管内プリベントマップ(詳しくは下記)を活用し、普段から桁下の高さを意識して走行しています。「高さよし！」



企画課 サービス指導からのコメント

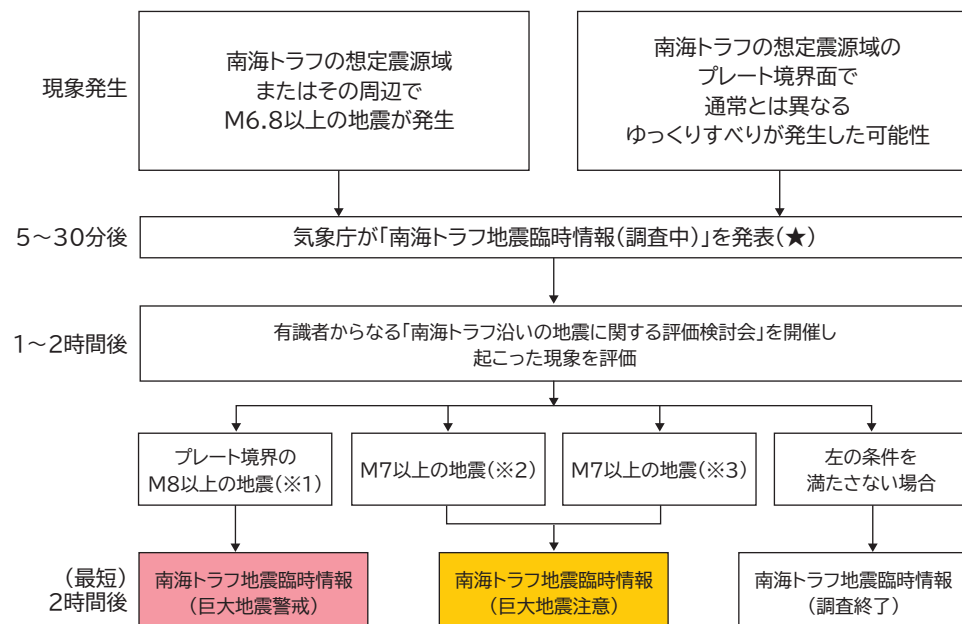
～事前確認の重要性について～

安全運行の実現には、事前確認の徹底が欠かせません。そのために、淀川消防署の「プリベントマップ」のように通行可能な経路や高さ制限箇所を事前に把握することは、事故防止に非常に有効です。プリベントマップ等で危険箇所を事前に確認することで、機関員は出勤前に確実に経路を確認し、運行中のリスクを軽減できます。また、指令書確認時にこの情報を乗組員全員で共有することで、出場経路の危険箇所を把握し、効果的で安全な運行が可能となります。今後もこの取組を継続し、一層の安全運行を目指してください。

おわりに

大規模な被害をもたらした阪神・淡路大震災から来年で30年。震災を経験した職員が年々減少する中、過去の災害を振り返り学ぶことが、今後発生が危惧される巨大地震から、一人でも多くの市民の生命、身体、及び財産を守ることに繋がっていくと考えています。

表されるものです。(図2)
本地震に際し、気象庁は同日17時00分に南海トラフ地震臨時情報(調査中)を発表、17時30分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を開催し、南海トラフで想定されている大規模地震との関連性について調査が行われました。その結果、19時15分に南海トラフ地震の想定震源域において、新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると判断し、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」を発表、1週間後の8月15日17時00分に、本発表に伴う「特別な注意の呼びかけ」が終了となるまで、大阪市内においても市民に対し、災害の備えを再確認するなどの注意喚起がなされました。なお、1週間という期間は、中央防災会議作成の「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」に記載された通りの期間でした。



(★) 調査が2時間程度以上に及ぶ場合等において、調査の継続状況を「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」により複数回発表することがある

※1 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合(半割れケース)

※2 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上、M8.0未満の地震が発生した場合、または南海トラフの想定震源域内のプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生した場合(一部割れケース)

※3 ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合(ゆっくりすべりケース)

図2 南海トラフ地震臨時情報の情報発表までの流れ

気象庁 令和元年5月31日報道発表資料「南海トラフ地震臨時情報」等の提供開始について」より引用
https://www.jma.go.jp/jma/press/1905/31a/20190531_nteq_name.pdf

無事故チャレンジ達成日数(令和6年9月末)

北	都島	福島	此花	中央	西	港	大正	天王寺	浪速
214	5	114	28	219	524	259	13	605	60
西淀川	淀川	東淀川	東成	生野	旭	城東	鶴見	阿倍野	住之江
92	176	334	231	433	398	148	27	55	562
住吉	東住吉	平野	西成	水上					
222	431	435	153	255					